

第84回 発電用設備規格委員会 火力専門委員会 構造分科会 議事録

1. 日 時：2015年4月3日（金）13時30分～17時10分
2. 場 所：日本機械学会 第3,4会議室
3. 出席者：飯田(東電)、西野（配管技術研究協会）、西田(MHPS 長崎)、高野(中電)、
大橋(ＩＨＩ)、黒板(東芝)、妹尾(関電)、豊嶋(MHPS 呉)、
代理者：位田[谷口(川崎重工)]、
オブザーバー：田村(MHPS 日立)
欠席者：小高(富士電機)
事務局：原

4. 配布資料

- 84-1 第83回構造分科会議事録（案）
- 84-2 構造分科会委員名簿
- 84-3 第71回火力専門委員会議事録(案)
- 84-3-2 ＩＩＰ検討状況
- 84-4 第73回発電用設備規格委員会議事録（案）
- 84-5 No.66 書面投票の意見(資料なし：構造分科会に係る意見がないため。)
- 84-6 追補版原稿(資料なし)
- 84-7-1 審議履歴表
- 84-7-2-1 Ⅲ章 PG&Ⅳ章 UG(コメント反映) ＩＨＩ
- 84-7-2-2,3 Ⅳ章 APP 1～3 ＩＨＩ
- 84-7-2-4 Ⅴ章 103,104 ＩＨＩ
- 84-7-3 Ⅳ～Ⅴ章(コメント反映) MHPS 長崎
- 84-7-4 Ⅲ章 APP&Ⅴ章 101,102 MHPS 呉
- 84-7-4 上記差替え分
- 84-7-5 Ⅴ章 APP 東電
- 84-7-6 Ⅲ章 PG 関電
- 84-7-7 Ⅳ章 APP24&Ⅴ章 100 中電
- 84-7-8 Ⅲ章 PG 東芝

5. 議題

- (1) 前回議事録確認 [資料 84-1]
前回議事録（案）について確認を行ない、議事録案は承認された。
・(4-1)-4)の「MHPS 東電」→「東電」に修正する。

- (2) 分科会委員・役員の承認 [資料 84-2]

新任候補として田村氏(MHPS 日立)の推薦が報告され、出席委員全員の賛成により次回火力専門委員会への推薦が承認された。また、堤田委員の3月末での退任が報告された。

(3) 報告事項

(3-1)火力専門委員会報告

[資料 84-3]

第71回火力専門委員会の審議内容のうち、主要な項目が以下のとおり報告された。

- ・火力専門委員会委員・役員の推薦承認
- ・各分科会委員・役員の承認
- ・第83回構造分科会報告
- ・発電技検 I I P 委員会の検討状況の紹介（飯田主査が、資料 84-3-2 により個別に紹介）
- ・配管減肉管理に関する規格(JSME S CA1-2005)の改訂案の書面投票実施の承認
- ・発電用火力規格(JSME S TA-O,TA1,2-2012) 追補の改訂案の書面投票実施の承認

(3-2)発電用設備規格委員会報告

[資料 83-4]

第73回規格委員会の審議内容のうち、火力に関連する内容が報告された。特記事項は以下のとおり。

- ・火力専門委員会委員・役員の承認
- ・火力専門委員会報告

CA1-2005 改訂案、TA-O,TA1,2-2012 追補案の審議状況等の報告

追補案については、火力専門委員会での書面投票の可決を条件に、規格委員会書面投票を実施することが承認された。

(4) 審議事項

(4-1) 追補改訂案

1) 書面投票意見対応

火力専門委員会の書面投票の投票状況について報告があった。

- ・火力専門委員会の書面投票の投票期間は4月8日までとなっており、現時点において構造分科会に係る意見はない。
- ・他の分科会に関連する意見は出ているので、改訂案に修正等がある場合には、編集上の修正であるかを火専委員長に判断していただき、編集上の修正である場合には火専委員長に確認していただいた改訂案を専門委員会各委員に報告する予定。
- ・火力専門委員会の書面投票が可決となると、4月9日以降に発電設備規格委員会の書面投票を実施する(期間は同じく 30 日)。
- ・規格委員会の書面投票において、構造分科会に係る意見などがあった場合には、対応案について検討をお願いする場合がある。

2) 今後の進め方の確認

- ・ 6 月 10 日の発電設備規格委員会において追補改訂案が承認されると、公衆審査および J E S C の技術適合性審査受審に進む予定。
- ・ 公衆審査の開始前までには、追補改訂案の原稿が必要となる。次回の構造分科会までに各委員が準備することとし、2012 年版の最終原稿の電子データがどれであるかは、事務局にて確認し各委員に連絡する。
- ・ 原稿は 1 枚単位(表と裏)で用意する。修正ページが表か裏かは、事務局に問い合わせれば、事務局にて調べてご連絡する。

(4-2) レビュー票審議

(4-2-1) 審議済みレビュー票ダブルチェック時の気付き

西野副主査から、レビュー票ダブルチェック時の気付きの紹介があった。

- ASME 規格の原文は執筆者が良く考えて記載しているものなので、基本的に省略、追加はよくない。
- 用語の不統一などについて、(examination, inspection, test code, standard, rule header, run pipe, brunch stop valve, shut off valve, block valve shall, should may など)
- 章をまたぐ用語の統一は難しい面があるが、既存の用語集の見直しなどについて今後検討していく。

(4-2-2) レビュー票審議

1) Ⅲ章 PG&Ⅳ章 UG(コメント反映) I H I

あらたなコメントは、なし。

2) Ⅳ章 APP 1~3 I H I

- ・ APPENDIX 1 1-3 厚い球形胴 → 球形胴
- ・ 1-8 の誤記修正を確認する。(1-8(c) ステップ 5 の追記修正)
- ・ 2-1(c) ディッシュカバー → 皿形ふた板
- ・ 2.2(b) SI 単位数値を採用する 76.2mm → 75mm
- ・ 図 2-7.4 の横軸の数値を修正する。
- ・ 表 2-4 の数値は ASME の SI 値ではなく、対象となる配管寸法が当てはまるように変更する。
- ・ 3-2 の公認証明書、証明書印は、国内の実情に合わせて修正、削除を検討。

3) Ⅴ章 103,104 I H I

- ・ 104.3.1(B.2)の「設計および製造にも適用される」の「も」を削除。
- ・ 104.3.1(G.4.2)の「分岐管の径が 150mm 以上の場合」と「DN150 未満の分岐管の場合」は、表現を揃える。

- ・ 104.3.1 と 104.8 の「Mandatory APPENDIX D」の「Mandatory」は削除。
(以前の発電設備規格委員会書面投票の意見により使わないこととなった。)
- ・ 表 104.1.2(A)備考 1.の語尾は、原文の「may」に合わせた表現(～してよい。
～できる。)にする。

4) Ⅲ章 APPENDIX MHPS 呉

- ・ ASME の SI 値を採用する (A-18.3, A-18.5, A-22.6.2, A-22.6.4.2.1)。
- ・ A-45 最も低い最高許容運転を超えない圧力 → 最も低い最高許容運転圧力を
超えない圧力
その圧力より 3%を超えない範囲内 → その圧力の上側に 3%を超えな
い範囲内
- ・ A-49 吹出し管 → 放出管

5) V章 101,102 MHPS 呉

- ・ ASME の SI 値を採用する (101.3.2(D), 102.4.6(B.1.1), 102.4.6(B.2.2),
102.4.6(B.2.4)。
- ・ 102.4.5(B)の「図 104.2.1」と「102.4.5」は、逆になっていないか、確認する。
- ・ 102.4.6(A)の「許容圧力-温度レーティング」は、「許容」と「圧力」の間に「の」
を追加する。

- 資料 84-7-3、84-7-5～7-8(MHPS 長崎、東電、関電、中電、東芝)のレビュー票
は、次回の分科会にて審議を行う。

6. 次回開催予定

日 時：2015 年 5 月 20 日 (水) 13 時 30 分～17 時 00 分

場 所：日本機械学会 第 3・4 会議室

以上